

国民経済計算の推計システム 見直しの現状等について

平成25年6月21日

内閣府経済社会総合研究所

業務・システム最適化の現状

- 我が国SNAの推計システムを大型電算機（メインフレーム）ベースから、エンドユーザー・ツールである「Excel/VBA」をベースとしたシステムに改変し、システムの可視性、機動性、柔軟性を高める取組を実施中。
 - 可視性：取り扱うデータ、処理プロセスの見える化と、習熟の容易化
 - 機動性：2008SNA対応など新たな課題に対する推計システム改修作業の迅速化・低コスト化
 - 柔軟性：試算・シミュレーション、仮説検証などの繰り返し試行が柔軟に実行可能
- 平成23年度から順次、着実にシステム改変を図っており、来年度（平成26年度）に移行が完了（平成27年度から稼働）する予定。

最適化による推計ミス防止の効果

デジタル署名の活用によるミスの早期発見・対応

- デジタル署名を活用し、管理者の承認の下、プログラムが常に最新かつ正(コピーでない)であることを保証(不注意等による書き換えを防止)。

各種データのデータベース化による人為的ミスの縮減

- 外部入手データ、手交データ等をデータベース化することで、推計にあたってのデータ受渡しの際の人為的な入力ミスを防止。

ファイル／フォルダの取り違えミスの防止機能の付与

- 試行錯誤やデータ更新等で作成された複数のワークシート間の取り違えミスの可能性に対しては、画面設計において、事前記入のファイル・リストから担当者がプル・ダウンで選択する方式を採用することにより対処。

作業時間の大幅縮減等によるチェックの実効性確保

- Excel/VBA化による作業時間の大幅な縮減によるチェック時間の確保、自動グラフ化機能等による効果的なチェックの実現

GDP速報推計ミスの再発防止策

- 平成24年10-12月期のGDP速報について、推計作業シート上のミスが発生、5月7日・8日に訂正を公表
 - 名目GDP(季調値)、GDPデフレーター(季調値)、実質GNI(季調値)を訂正
- 5月16日(25年1-3月期1次速報公表時)に、新たに、以下のシステム開発・運用を内容とする「再発防止策」を公表。平成25年4-6月期1次速報までには運用。
 - 各系列について時系列的な傾向を踏まえた異常値検出のためのシステム整備
 - 各系列に修正・変更があった場合に、他に影響を受ける系列の範囲を自動的・網羅的に把握するシステム整備